

令和3年度第2回物部川清流保全推進協議会幹事会 議事要旨

開催日：令和4年3月23日（金）

場所（時間）：WEB会議（13:30~14:30）

出席者：【幹事】18名（代理出席含む）

【事務局】自然共生課 2名

議題1 令和3年度物部川清流保全推進協議会の取組について（報告）

事務局より、資料に基づき説明

【意見なし】

議題2 総会報告資料及び収集情報について（報告）

事務局より、資料に基づき説明

【主な意見】

- ・ 清流保全計画の取組とモニタリングについて、わかりやすく整理しているものの、関係機関がもっとやる気になるように、目標の関連性を明確にした方が良い。
- ・ 令和10年までの中期目標を設定することだが、計画で定める50年度の全体目標まで見据えたうえで、10年後、20年後、30年後といったフェーズに分けて設定してはどうか。そして共有することが大事。
→10年の中期目標は、今年度の総会での決議事項であるため、まずは中期目標を立てて目指す姿を切り分けていきたい。
- ・ 全ての目標を平等に扱うのか、それとも優先的に扱うのか。清流保全計画のキャッチフレーズは「アユが湧き立つ川」なので、例えば「アユの漁獲量」を上位目標にして、目的と手段の関係などを整理してはどうか。
→目標の関連性ともつながってくるが、目標や優先順位の整理の仕方を工夫しながらまとめて次の幹事会に提案したい。
- ・ 豊かな水量を確保する項目では、治山や砂防事業の執行状況、林床植生の喪失面積。また、河川では濁水対策検討会でも検討してきた土砂流出量や河床のシルト堆積、ダムの土砂堆積など、関係機関が持っているデータも包括的に入れると良いのではないか。
→国土交通省や河川課等にデータ提供の協力をお願いしたい。
- ・ 森林整備の下刈りや除伐、間伐、シカ対策等、計画に基づいて実行しているので、数量は提供可能。
- ・ アユについて、漁獲量だけでなく、遡上時期や夏の定着時期、落ちアユの降下時期、流下仔魚等データは取得しているので提供可能。ただ、アユの場合は年によって変動が大きく単年での比較が出来ないものの、長期のデータを取得すれば色々なことがわかってくると思う。
- ・ 国土交通省では5年に1度、水辺の国勢調査を実施しており、時期や対象種に特化して調査するといったことはあるが、（一定）対応は可能。物部川の特徴である魚種を調査して、数量を把握すればある程度、環境への影響や変化が把握できると思う。
- ・ 物部川でも外来種ではなく移入種が問題になっている。定期的に移入種の調査を行えば、濁

水問題も含めて色々な問題を反映すると思う。

- 物部川を取り巻く状況は不確実で目標を立てても達成できないことは往々にある。そういうときに批判するのではなく、理由を解明し理解して共有していくことが大切。
- 濁水対策等、農業部署や公営企業局の地道な取組があるから徐々に改善されてきている。そういう取組が共有できるものになれば良い。
- 指標について数値で表すだけでなく、地図上に示すなど視覚的に表現できれば良い。

その他（情報共有・意見交換等）

- 先日の川本来の姿を取り戻すワーキングで示されたマニュアル、まだ案となっているが、今後の物部川だけでなく、川とどうやって向き合えばよいか大事なところがある。ワーキングで示されたかたちで河川管理者とともに進めていけば、もしかしたら5年先、10年先で結果が出るかもしれない。
- 清流保全や濁水対策等、今は厳しいけれども地道に進めていけば少しずつ解決していくのではとの希望を持っている。物部川だけでなく全国どの川でも持っている課題を解決するため地道に続けていくことしか自然の変容への対応はないと思っている。